下地幹郎氏の自民党との関係及び各種選挙における競合等の経緯

年	選挙・事案	下地氏の行動・経緯	自民党との関係
2003	衆院選・沖縄１区	党本部が公明党・白保台一氏を推薦する方針を決定した中、無所属で出馬。	党本部方針と競合
2004	参院選・県議選等	参院選で自民党公認候補を支援せず、県議選では「反自公」の立場で対抗候補を支援。県連はこれらを含む 3 点を理由に除名を決定し、党本部へ上申。のちに離党勧告を受け、2005 年に離党。	党籍中の処分対象
2004.11	那覇市長選	自民・公明推薦の現職・翁長雄志氏に対し、高里鈴代氏側の支援に回ったと報道。下地氏の自民党離党は 2005 年であり、市長選時点では離党前。	党籍中／自民推薦候補の対抗候補を支援
2006.1	名護市長選	下地氏が代表の「そうぞう」が、民主・共産・社民・社大等が推す我喜屋宗弘氏を推薦・支援。自民・公明推薦の島袋吉和氏と対立。	離党後／自民推薦候補と対立
2006.11	沖縄県知事選	下地氏が代表を務めた「そうぞう」が、野党統一候補・糸数慶子氏を支持。自民・公明推薦の仲井真弘多氏と対立。	離党後／非自民候補を支援
2008.11	那覇市長選	自民・公明が支援する現職・翁長雄志氏に対し、平良長政氏陣営を国民新党・そうぞうが支援し、保守票の切り崩しを図ったと報道。	離党後／自民系候補と対立
2009	衆院選・沖縄１区	国民新党公認で出馬し、自民党公認の國場幸之助氏と直接競合。	自民公認候補と競合
2012・14・17	衆院選・沖縄１区	国民新党、維新系政党から出馬し、國場幸之助氏を含む自民党公認候補と繰り返し競合。	継続的に競合
2014	沖縄県知事選	無所属で出馬し、自民党推薦の仲井真弘多氏と競合（69,447 票）。	自民推薦候補と競合
2021・24	衆院選・沖縄１区	無所属で出馬し、自民党公認の國場幸之助氏と直接競合。2024 年は 29,615 票を獲得。	自民公認候補と競合
2022	沖縄県知事選	無所属で出馬し、自民・公明推薦の佐喜真淳氏と競合（53,677 票）。	自民推薦候補と競合
2026.1	第 51 回衆院選	自らは出馬せず、比例代表では「中道改革連合を支援する」と本人が公表し、自民党を支持しない理由も明示。	直近の非自民政党支援

年	選挙・事案	下地氏の行動・経緯	自民党との関係
2026.8	沖縄県知事選	自民党推薦の古謝玄太氏が立候補する中、下地氏も出馬を表明。7 月 23 日の政策発表では、政府・自民党が進める普天間飛行場の辺野古移設について現行計画の見直しを主張し、那覇軍港の浦添移設中止を明言するなど、自民党側の基地政策と正面から対立する公約を掲げた。選挙直前までこの立場を示していたが、告示 2 日前の 8 月 25 日に自民党本部と選挙戦撤退で合意し、翌 26 日に出馬取りやめを正式表明した。	自民推薦候補と競合／基地政策でも正面から対立

【整理上のポイント】 党籍中の行為と、離党後の政治活動は区別して整理する必要がある。2004 年参院選・県議選等は県連が正式に処分理由として整理した行為であり、2004 年 11 月那覇市長選も自民党離党前に自民・公明推薦候補の対立側を支援した事例として位置付けられる。一方、2006 年以降の各選挙は、厳密には「反党行為」と断定せず、「自民党公認・推薦候補との競合」「非自民勢力への支援実績」と記載するのが適切である。2020 年には県連が下地氏の復党を認めないことを常任総務会で組織決定している。県内首長選については、下地氏本人または下地氏系政治団体による自民党公認・推薦候補との対立・対抗支援が資料で確認できた事例のみ掲載している。

【参考資料】①自民党沖縄県連の 2004 年処分理由に関する報道、琉球新報「翁長氏との確執再燃 下地氏除名の波紋」（2004 年 10 月）等 ②那覇市選挙管理委員会・各選挙結果資料（2004 年、2008 年那覇市長選） ③2006 年名護市長選に関する報道（「そうぞう」の我喜屋宗弘氏推薦・支援） ④QAB「那覇市長選 あさって投開票」（2008 年 11 月 14 日） ⑤琉球新報「下地氏、復党願を提出」（2020 年 10 月 30 日）及び県連の復党不承認に関する報道 ⑥沖縄県・各市選管選挙記録、選挙ドットコム各選挙結果 ⑦下地幹郎氏「下地幹郎の選択と責任」（2026 年 1 月 27 日） ⑧RBC 琉球放送「下地幹郎氏 沖縄県知事選挙に向け政策発表」（2026 年 7 月 23 日） ⑨RBC 琉球放送「告示 2 日前に衝撃 下地幹郎氏の沖縄県知事選撤退」（2026 年 8 月 25 日） ⑩沖縄県選挙管理委員会「令和 8 年沖縄県知事選挙」特設ページ（告示日：2026 年 8 月 27 日）